

謝 辞

月光川ダムの流量データの利用について便宜を与えてくださった山形県、および1972年以来鳥海山定点写真を継続撮影して下さった酒田測候所の方々にお礼を申し上げます。

文 献

Elliston, C.R., 1973: Water movement through the Gornergletscher, IASH Pub. 95, 79-84.

小林大二, 1979: 融雪水の流出, 気象研究ノート, 136, 39-48.

土屋 巖, 1976: 飯豊山・月山・鳥海山の大量積雪および小規模氷河現象発生についての序報, 雪氷, 38, 178-187.

———, 1981: ランドサットデータによる鳥海山の残雪の季節推移の数値解析, 雪氷, 43, 155-161.

———, 1982: ランドサット MSS および RBV による山地残雪の解析—鳥海山と月山について, 昭和57年度日本雪氷学会 秋季大会 講演予稿集, 118.

第22期第4回理事会協議内容

日 時 昭和58年10月19日(水) 18.00~20.00

場 所 仙台市, 旅館「梅林」

出席者 岸保, 荒井, 嶋村, 杉村, 二宮, 村山, 田宮, 菊地, 柳原, 田中, 森安

協議内容 (注: 理事会が定数不足のため成立しなかった
ので, 協議内容の報告にとどめる.)

(1) 昭和59, 60年度の第1次予算(案)について

担当理事から, 学会費値上げの必要理由について, 次の項目について説明がなされた.

ア. 機関誌の維持拡充

長年の懸案であった「天気」, 「気象集誌」の頁数をふやしたい.

イ. 事務局体制の確立

会員数も増えているので, 事務局長プラスアルバイト制を確立して, これに対処したい.

ウ. 支部活動の強化

今回は支部交付金を2割アップして, 支部活動の活発化, 強化をはかりたい.

エ. 国際交流の促進化

中国との交流が手はじめであるが, 国際的な情勢に対処するようにしたい.

オ. 予備費の確保

これまで程度の予備費では, 学会の機能を十分に果たし得ないので, 増額の方向に持って行きたい.

以上の項目について, 各理事から活発な意見が出さ

れ, 値上げ幅を2割にするか3割にするかは, 常任理事会において検討のうえ, 各地方理事に御連絡するので, 後日意見を知らせていただくことになった.

(2) 日本気象学会国際学术交流委員会(案)について
理事長から, 提案理由の説明がなされ, 今後外国の研究者と交流を強めて行きたいと提案された.

(3) 「日本学術会議法の一部を改正する法律案」について
これについてはさきの理事会に提案された時点での問題について, 色々討論が行われた.

(4) 気候変動国際協同研究計画について

田中理事から計画書に基づいて

(目標Ⅰ) 長期予報の物理的基礎の確立

(目標Ⅱ) 大気大循環の年々変動の解明

(目標Ⅲ) 長期気候変動の機構と気候に対する人間活動の解明

についての要旨の説明がなされた.

(5) その他

ア. 昭和58年度日本気象学会奨励金受領者の決定の報告について

イ. 「天気」の10月号の目次及び11月号の予定目次について

それぞれ報告があり,

ウ. 「天気」編集委員の交替について

エ. 会員の新規加入の承認について

は, それぞれ第12回常任理事会に持ち越しとなった.